

2020 年度 学生による授業評価の結果について(報告)

1. 概要

(1) 趣旨

本学では、大阪歯科大学授業評価実施規程に基づき、毎年度開講される授業について、学生による授業評価を実施しています。

本学では、カリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラムが適正に運用され、有効に機能しているかどうかを評価・検証し、改善活動に生かすことを目的に、毎年度カリキュラムの評価を行っています。授業評価等の在学生による調査の結果は、カリキュラム評価のエビデンス(根拠となるデータ)のひとつとして活用するため、原則としてシラバスにもとづくすべての開講科目について実施しています。

2020 年度に実施された授業評価アンケートの結果について、集計を行い、全学的な傾向について報告します。

(2) 評価方法

《対象》 原則、全科目で実施します。

《実施時期》 半期毎(前期・後期 終了時。通期実施科目は最終授業終了時。)

《得点算出方法》

評価基準1～3の合計得点を 100 点換算

【評価基準1】 4段階評価 6 項目 30 点満点

すべてのコマについて該当する 5

半数以上の実施コマについて該当する 3

半数未満の実施コマについて該当する 1

まったく該当しない 0

《評価項目》「講義・演習に関する」 6項目

項目① シラバスに記載された内容のとおり講義・演習が実施されていた

項目② 知識及び技能の獲得のために工夫した教材、設備・機器、モデルを活用している

項目③ 講義・演習を進めるにあたり、口頭試問やワークシートなどを活用し、受講者の理解度を
確認する工夫がなされていた

項目④ 講義時間内にとどまらず、オフィス・アワーや WEB システムなどを活用し、受講者からの
質疑に適切に対応していた

項目⑤ 一方的な講義形式ではなく、受講者の主体的・能動的な講義参加を意識した授業運
営・演習により、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。

項目⑥ 予習・復習課題など自主学習教材(WEB・紙問わない)が提供されていた

《評価項目》「講義・実習に関する」6項目

項目① シラバスに記載された内容どおりに講義・実習が実施されていた

項目② 実習の目的や位置づけについて、あらかじめ適切な説明や指導がなされた

項目③ 実習は、タイムリーに説明・助言が行われ、教員の関わりによって実践的な理解が深まった

項目④ 講義・実習時間内にとどまらず、オフィス・アワーや WEB システムなどを活用し、受講者からの質疑に適切に対応していた

項目⑤ 知識・技能及び態度の修得のために工夫した教材、設備・機器、モデルを活用するなど実習環境は整っていた

項目⑥ 予習・復習課題など自主学習教材(WEB・紙問わない)が提供されていた

【評価基準2】 総合評価 10 点満点

《評価項目》 10 点満点(主観評価)

項目⑦ すべての実施コマを通してシラバスに掲載された学習目標を達成できる科目設計であった

【評価基準3】 総合評価 10 点満点

《評価項目》 10 点満点(主観評価)

項目⑧ すべての実施コマを通して該当するディプロマ・ポリシーを身に着けられる科目設計であった

(3) 結果(歯学部)

【科目数】

	講義・演習	講義・実習
第1学年	15	4
第2学年	2	13
第3学年	12	7
第4学年	8	6

【100点換算の得点】

	講義・演習(N:37)	講義・実習(N:30)
最高得点	94.4	91.6
最小得点	57.0	68.6
平均点	82.6	82.5
標準偏差	6.8	6.0

【学年別平均】

	講義・演習	講義・実習
第1学年	79.5	82.3
第2学年	79.5	80.5
第3学年	82.2	81.4
第4学年	89.1	88.3

- 「講義・演習」「講義・実習」いずれも平均得点 8 割以上の高評価となった。
- 全体として評価が高かったのは設問1「シラバスによく沿うものであった」。
- 評価の低い授業が見受けられるのは設問 6「自主学習教材が提供されていた」で、授業間での評価のばらつきも大きかった。
- 全体的に第 4 学年の科目の評価が高い傾向にある。

【講義・演習】

基準1	1. シラバスに記載された内容どおりに講義・演習が実施されていた	5点: すべてのコマについて該当する 3点: 3 半数以上の実施コマについて該当する 1点: 2 半数未満の実施コマについて該当する 0点: 1 まったく該当しない
	2. 知識及び技能の獲得のために工夫した教材、設備・機器、モデルを活用していた	
	3. 講義・演習を進めるにあたり、口頭試問やワークシートなどを活用し、受講者の理解度を確保する工夫がなされていた	
	4. 講義時間内にとどまらず、オフィス・アワーやWEB システムなどを活用し、受講者からの質疑に適切に対応していた	
	5. 一方的な講義形式ではなく、受講者の主体的・能動的な講義参加を意識した授業運営・演習により、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	
基準2	6. 予習・復習課題など自主学習教材(WEB・紙問わない)が提供されていた	
基準3	7. すべての実施コマを通してシラバスに掲載された学習目標を達成できる科目設計であった(10段階で評価)	
	8. すべての実施コマを通して該当するディプロマ・ポリシーを身に付けられる科目設計であった(10段階で評価)	

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	基準1	基準2	基準3	合計	100点換算
全体平均	4.35	4.20	4.11	4.09	4.02	3.99	24.8	8.3	8.3	41.3	82.6
第1学年	4.17	4.05	3.95	3.87	3.84	3.68	23.6	8.1	8.1	39.7	79.5
第2学年	4.28	4.01	3.97	3.93	3.86	3.92	24.0	7.9	7.8	39.7	79.5
第3学年	4.35	4.13	4.07	4.12	3.97	4.06	24.7	8.2	8.2	41.1	82.2
第4学年	4.66	4.57	4.47	4.47	4.43	4.41	27.0	8.8	8.8	44.5	89.1
標準偏差	0.40	0.40	0.41	0.43	0.43	0.45	2.37				

【講義・実習】

基準1	1. シラバスに記載された内容どおりに講義・実習が実施されていた	5点: すべてのコマについて該当する 3点: 3 半数以上の実施コマについて該当する 1点: 2 半数未満の実施コマについて該当する 0点: 1 まったく該当しない
	2. 実習の目的や位置づけについて、あらかじめ適切な説明や指導がなされた	
	3. 実習は、タイムリーに説明・助言を行われ、教員の関わりによって実践的な理解が深まった	
	4. 講義・実習時間内にとどまらず、オフィス・アワーやWEB システムなどを活用し、受講者からの質疑に適切に対応していた	
	5. 知識、技能及び態度の修得のために工夫した教材、設備・機器、モデルを活用するなど実習環境は整っていた	
基準2	6. 予習・復習課題など自主学習教材(WEB・紙問わない)が提供されていた	
基準3	7. すべての実施コマを通してシラバスに掲載された学習目標を達成できる科目設計であった(10段階で評価)	
	8. すべての実施コマを通して該当するディプロマ・ポリシーを身に付けられる科目設計であった(10段階で評価)	

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	基準1	基準2	基準3	合計	100点換算
全体平均	4.31	4.19	4.15	4.11	4.16	4.02	24.9	8.2	8.1	41.3	82.5
第1学年	4.18	4.11	4.09	4.09	4.13	4.01	24.6	8.3	8.3	41.2	82.3
第2学年	4.26	4.11	4.04	4.09	4.03	3.89	24.4	7.9	7.9	40.2	80.5
第3学年	4.21	4.06	4.08	3.96	4.05	3.97	24.3	8.2	8.1	40.7	81.4
第4学年	4.63	4.55	4.49	4.33	4.57	4.36	26.9	8.6	8.6	44.2	88.3
標準偏差	0.30	0.37	0.37	0.32	0.36	0.42	2.05				

(4) 結果(医療保健学部)

【科目数】

	講義・演習	講義・実習
第1学年	38	4
第2学年	36	8
第3学年	25	13
第4学年	13	8

【100点換算の得点】

	講義・演習	講義・実習
第1学年	76.8	86.3
第2学年	84.2	86.0
第3学年	86.4	87.8
第4学年	78.8	74.5

【学年別平均】

	講義・演習(N:37)	講義・実習(N:30)
最高得点	98.0	96.0
最小得点	45.8	60.0
平均点	81.5	83.9
標準偏差	9.2	8.3

- 「講義・演習」「講義・実習」いずれも平均得点 8 割以上の高評価となった。
- 全体として評価が高かったのは設問1「シラバスによく沿うものであった」。
- 評価の低い授業が見受けられるのは設問 5「一方的な講義形式ではなく、受講者の主体的・能動的な講義参加を意識した授業運営」で、授業間での評価のばらつきも大きかった。

【講義・演習】

基準1	1. シラバスに記載された内容どおりに講義・演習が実施されていた	5点: すべてのコマについて該当する 3点: 3 半数以上の実施コマについて該当する 1点: 2 半数未満の実施コマについて該当する 0点: 1 まったく該当しない
	2. 知識及び技能の獲得のために工夫した教材、設備・機器、モデルを活用していた	
	3. 講義・演習を進めるにあたり、口頭試問やワークシートなどを活用し、受講者の理解度を確認する工夫がなされていた	
	4. 講義時間内にとどまらず、オフィス・アワーやWEB システムなどを活用し、受講者からの質疑に適切に対応していた	
	5. 一方的な講義形式ではなく、受講者の主体的・能動的な講義参加を意識した授業運営・演習により、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	
	6. 予習・復習課題など自主学習教材(WEB・紙問わない)が提供されていた	
基準2	7. すべての実施コマを通してシラバスに掲載された学習目標を達成できる科目設計であった(10段階で評価)	
基準3	8. すべての実施コマを通して該当するディプロマ・ポリシーを身に付けられる科目設計であった(10段階で評価)	

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	基準1	基準2	基準3	合計	100点換算
全体平均	4.44	4.22	4.11	4.09	4.00	4.03	24.9	8.0	8.0	40.8	81.5
第1学年	4.30	4.02	3.90	3.78	3.68	3.81	23.5	7.7	7.6	38.4	76.8
第2学年	4.49	4.36	4.29	4.32	4.27	4.27	26.0	8.0	8.0	42.1	84.2
第3学年	4.73	4.43	4.27	4.35	4.22	4.13	26.1	8.5	8.5	43.2	86.4
第4学年	4.14	4.02	3.94	3.88	3.77	3.81	23.6	7.9	7.9	39.4	78.8
標準偏差	0.41	0.52	0.57	0.52	0.64	0.50	2.92				

【講義・実習】

基準1	1. シラバスに記載された内容どおりに講義・実習が実施されていた	5点: すべてのコマについて該当する 3点: 3 半数以上の実施コマについて該当する 1点: 2 半数未満の実施コマについて該当する 0点: 1 まったく該当しない
	2. 実習の目的や位置づけについて、あらかじめ適切な説明や指導がなされた	
	3. 実習は、タイムリーに説明・助言を行われ、教員の関わりによって実践的な理解が深まった	
	4. 講義・実習時間内にとどまらず、オフィス・アワーやWEB システムなどを活用し、受講者からの質疑に適切に対応していた	
	5. 知識、技能及び態度の修得のために工夫した教材、設備・機器、モデルを活用するなど実習環境は整っていた	
	6. 予習・復習課題など自主学習教材(WEB・紙問わない)が提供されていた	
基準2	7. すべての実施コマを通してシラバスに掲載された学習目標を達成できる科目設計であった(10段階で評価)	
基準3	8. すべての実施コマを通して該当するディプロマ・ポリシーを身に付けられる科目設計であった(10段階で評価)	

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	基準1	基準2	基準3	合計	100点換算
全体平均	4.40	4.40	4.39	4.23	4.31	3.91	25.6	8.1	8.2	42.0	83.9
第1学年	4.62	4.61	4.39	4.38	4.59	4.22	26.8	8.2	8.1	43.1	86.3
第2学年	4.41	4.47	4.45	4.47	4.49	4.23	26.5	8.2	8.3	43.0	86.0
第3学年	4.65	4.60	4.60	4.39	4.51	4.02	26.8	8.5	8.6	43.9	87.8
第4学年	3.86	3.89	3.99	3.68	3.67	3.25	22.3	7.5	7.4	37.3	74.5
標準偏差	0.55	0.47	0.51	0.56	0.58	0.55	2.84				